

働くことと生きること

国民の祝日の一つとして、11月23日を「勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう」という趣旨で、勤労感謝の日と定められました。（昭和23年7月20日）

宮中では、天皇がその年の初穂を神に捧げる儀式が行われ、各地でも新穀感謝の行事が行われます。

収穫を生み出した勤労を尊ぶという精神で、国民が互いに日頃の苦勞をねぎらいあうのがこの日の目的です。

私たちが社会の恩恵を受け、平和で文化的な生活を送れるのは、単に農作物に限らず、多くの人々の勤勞のおかげであることを深く考えてみたいと思います。

作家・水上勉さんの著書に「働くことと生きること」（東京書籍）という本があります。

若い頃の水上さんは、貧しくていろいろな仕事を転々としてきました。ある年、電気協会に勤めていた水上さんは、山奥の保線区回りをしました。山奥の発電所から町に電気を送るために何十本、何百本という鉄塔が山から山へ、谷から谷へと続いています。冬に山に登った水上さんは、不思議なものを見ました。鉄塔の頭でした。案内役のAさんに、「電線はどこにあるのですか」と聞く「もぐってます」という答え。二人でスコップを使い、1時間以上かかって電線が出てきました。一本の鉄塔には、四本の電線がつながり、山の稜線をぬって遠くへ消えています。「私の分担はあの山までです」指された山は、かすんで見えないほど遠かったのです。Aさんは、「ちょっと巡回してくから、ここにいてください」と言って、スキーでまたたくまに消えてしまいました。鉄塔と鉄塔につながれた電線の故障を発見するために、山男たちは風景の中を鳥のようにとびまわっているのです。

水上さんは書いています。

「非行少年や家出少年を防ぐために、公園は昼のように燈火を掲げて夜を過ごす。秋葉原では照明器具を売る店が不夜城のように無数の飾り燈をつけて客を招いている。ああ、この都会の明るい真夜中、なだれや倒木の音を聞けばスキーを走らせて現場へ急ぐ保線区の人々が徹夜で働いていることを思い給え、諸君は少しはこの世の文明の正体が分かるはずだ。」私たちの快適な生活を支える人々の勤勞に対して、感謝を忘れてはいけません。

勉強のくふう

誰の悩みも同じ

25日(火)から二学期・期末テストが始まります。計画的に学習は進んでいるでしょうか。

あるお母さんが言っています。

「自分の子どもの様子を見ていて、気になることがあります。その一つに根気がないことがあげられます。勉強にとりかかるのに時間がかかる。さっさと始めない。ムダな時間が多いのです。勉強していても、数学を10分くらいやっただとおもうと、本をバタッと閉じて、今度は英語のノートをひっぱりだす。それを開いておいて爪を切っている。爪を切ったら今度は爪磨き、磨きながら英語の参考書をちらちら眺めている。何かノートに書きながら、片一方の手で消しゴムをいじって遊んでいる。漫画の雑誌をちょこっと見たり、テレビのなにかが気になったりして、勉強には集中できないようです。飽きっぽい、根気がないといってもいいようです。飽きっぽいのは子どもの性格でしょうか。根気がないのは治すことができないものでしょうか。なんとかして粘り強い子にしてやりたいのですが」

じつはこういう相談を私自身もしたいのです。私の息子も同じようですから。というよりも私自身も、何かに集中しきれないことが少なくないのです。私の場合は何かをしていて気が散りやすいのを自覚しています。たとえば読書をしていて、目が字面をなぞっているけど、アタマは本の内容とは全然別のことをぼんやり考えていることが少なくないのです。本を読んでもアタマはその中身とは離れてあれこれ連想している。ちょうど居眠りしていてとりとめのない夢を見ているような感じなのです。そんなとき、ひよいと我にかえる瞬間とでもいうものがあって、アタマを振って「これはイカン、もっとしっかりせよ！」などと自分で自分を叱ってみたり、声を出して本を読んだりしています。ときには自分で自分のアタマをゲンコツでゴツンとやったり、ほっぺたを平手でピシャリとやることもあります。こうして自分で自分に「気合い」を入れているつもりなのです。

他人にわかるように説明してみる

私のやっていることで、効果的と思うことは、とにかく30分なり1時間なり、自分の決めた時間はそのことをし続けると決心し、それが終わらなければ席を立たないということがあります。気が散って別のことをやりたいと思っても、席を立たないのですから、実際に別のことができないのです。それに読むのでも書くのでも、できるだけ速

くやるようにしています。ゆっくり時間をかけてやるというやり方もあるでしょうが、私の場合は自分で自分を追い立てるような感じで、意識しているのです。さっささっさとやっていく。言うなれば自分意識して余分なことを考えられないようにしてしまうとでも言いましょうか。それに何かするとき、自分の隣に誰かいて、その人に分かるように説明しているつもりで勉強しているのです。他の人に説明してみると、自分でわかっていたつもりが、あやふやだったりすることも少なくありません。他人に解説してみても、自分の本当の実力が確認されたとでも言うのでしょうか。そういうことが実感できます。

知識とか知恵とかは、物ではありませんので、人に教えても減ることはありません。むしろ人に教えることによって自分の知識や知恵は確実になり豊かになるのです。心の問題は物質とか金銭とは違って、他に与えれば与えるほど増えるのです。なにか書くのも自分の心、気持ちを書くのです。そうすると自分の心とか気持ちとかがはっきりしてきます。自分はこんな気持ちでいたのか、自分はこんなことにこだわっていたのか、どうしてこんなことにこだわっていたのかなどと考えていくと、だんだん自分の正体が自分でつかめます。こういうことを「自分を調べる」というのです。

それに私は、ノートには日付、天候、その他勉強の感想など書いておいて、勉強したものは必ず記録として綴っておきます。これが何日も何十日もしますと、思わぬ量になっていて、これが自分の努力の跡だと実感できるようになります。勉強は積み重ねだといいますが、その積み重ねを目に見えるようにしていくのです。勉強の記録が案外自分を励ましてくれるものです。また、勉強には朝の時間が有効です。朝は脳も疲れがとれていてさわやかですから、生活そのものを朝型にします。数日、思い切って6時前に起きてごらんください。夜10時には寝られるようになります。どれか一つでも実行してみてください。

期末テスト時間割

11月25日(火) 1 保体 2 国語 3 理科

11月26日(水) 1 音楽 2 数学 3 社会

11月27日(木) 1 技家 2 英語 3 学活

頑張ろう！